

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

sk18086
sk18087
神機構-82
神機構-704

③施設名等

名称:	日本水上学園
施設長氏名:	佐々木 亮
定員:	90名
所在地(都道府県):	神奈川県
所在地(市町村以下):	
T E L:	
U R L:	
【施設の概要】	
開設年月日	1942/7/20
経営法人・設置主体(法人名等):	社会福祉法人日本水上学園
職員数 常勤職員:	29名
職員数 非常勤職員:	2名
有資格職員の名称(ア)	保育士
上記有資格職員の人数:	6名
有資格職員の名称(イ)	幼稚園教諭
上記有資格職員の人数:	2名
有資格職員の名称(ウ)	社会福祉士
上記有資格職員の人数:	2名
有資格職員の名称(エ)	社会福祉主事
上記有資格職員の人数:	3名
有資格職員の名称(オ)	教員
上記有資格職員の人数:	7名
有資格職員の名称(カ)	
上記有資格職員の人数:	
施設設備の概要(ア)居室数:	年少児童寮1、男子年長児童寮4、女子年長児童寮4
施設設備の概要(イ)設備等:	伊藤記念館(食堂、面談室、プレイルーム、親子生活訓練室、
施設設備の概要(ウ):	自立訓練室、実習生室)、園内保育室、会議室
施設設備の概要(エ):	

④理念・基本方針

◇基本理念	キリスト教の精神に基づき、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを理念とする。
◇基本方針	児童の自立支援にあたり、「経済的自立」と「精神的自立」の二つを柱に支援の目標を定めています。 「経済的自立」 自分で働いて食べていくことのできる能力 「精神的自立」 他人を配慮しながら自分で考えて行動を決定し、その結果に責任をとることのできる能力

⑤施設の特徴的な取組

○園開設以来続いていた女性職員の住み込み勤務を、1996年より全職員通勤制に変更している。その結果、職員の勤続年数が延び、子どもの入所から卒園後まで同じ職員が担当として関わることができるようになっている。子どもたちとの信頼関係が深まり、自立に向けた支援につなげている。
○全職員の通勤制も軌道に乗り、職員が長く同じ子どもに関わる個別担当制を取っている。また、複数指導体制により担当職員をフォローしている。職員同士が支え合う仕組みを構築している。
○毎年、1年間の養育・支援のあり方を振り返り、「日本水上学園の児童養護」としてまとめている。「日本水上学園の児童養護」は24年間継続して発行しているが、最近ページ数が増えているため、今年度は伝えたいテーマを決め、その実践についてまとめた形式にリニューアルしている。また、「日本水上学園の児童養護」には、社会に巣立っていった子どもたちの退所時の状況を数値化し、養育・支援の見える化にも取り組んでいる。
○子どもたちの権利を擁護し、職員体制の充実を図るため、職員会議や寮会議の開催を月3回に増やす他、リーダー職員と各職員の面談を2か月に1回実施している。新人職員に対してはさらに3回多く実施している。これまで実施していた月1回の職員学習会も継続し、勤続年数1～3年の職員を対象に、新任職員学習会も月1回開催している。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/6/7
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/2/16
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成28年度

⑦総評

<p>○1942年開設の歴史のある園で、子どもたちの経済的自立と精神的自立を目標に置き、子どもたちの自立を目指した養育・支援を実践している。子どもたちは、小学1年生までは年少児童寮に、小学2年生以上は男子年長児童寮と女子年長児童寮で生活を送っている。</p> <p>○経済的自立を目指すためには、学力の向上が重要であることから、公文式学習を取り入れている。小学生を対象とした算数公文は、週5日程度実施し、平日は夕食前の1時間、子どもたちが会議室に集まり、教材に向っている。国語公文は、算数公文から移行した小学生や、国語力・コミュニケーション能力の伸長が特に望まれる中学生や高校生を対象に、週5日程度実施している。ともに、グループダイナミクスにより、学力の向上だけでなく、学習の習慣や学習意欲の向上につながっている。</p> <p>○基礎学力の向上を目指した公文式学習と同様「子どもたちが将来社会に出ていく時に武器となるようなものを身に付けてほしい」という思いから、小学校低学年と、小学校高学年・中学生の2クラスに分かれて、週1回、英会話を行っている。英会話はゲームを取り入れ、子どもたちが楽しく参加している。</p> <p>○昨年度より、コグトレ（学習面、身体面、社会面に働きかける3つのプログラムの総称）を導入している。小学校低学年と年少児童寮の2クラスに分かれ、集中力や感情のコントロールに課題がある子どもや、発達に課題がある子どもを対象にして、認知機能を強化するトレーニングを行っている。</p> <p>○中学生は、平日の夜、担当職員の指導を受けて、学習に取り組んでいる。また、週1回、学習ボランティアの指導を受けている中学生や、塾に通っている中学生もいる。</p> <p>○精神的自立を目指すため、精神的自立委員会を設置し、委員会を中心に、子どもたちのコミュニケーション力を高める取り組みを行っている。コミュニケーション力を伸ばすため、子どもたちの話し合いの場を多く設定している。ユニットや年代別、また、全体会での話し合いの場等を通し、子どもたちは、他人の意見をきちんと聴き、自分の意見を表明してコミュニケーション力を高めている。</p> <p>○「高校生オリエンテーション」では、年度の初めに高校生全員が集まり、職員と一緒に1年間の生活のルールについて意見を交換している。また、他施設の中・高校生との交流会も行っている。</p> <p>○年1回、園長が全ての子どもと面接を行う他、年3回、リーダー職員が寮の子どもと面接を行っている。日頃から、子どもたちの声を多く聴き取り、養育・支援に活かすようにしている。また、担当職員が子どもと一対一で外出（映画やポーリング、外食等）し、園内では言いにくいこと等を個別に聴いている。</p> <p>○朝、夕は、年長児童寮の子どもたちが食堂に集まり、皆と一緒に楽しく食事をしている。調理は外部業者への委託だが、子どもたちの成長を考え、楽しく、おいしい食事を提供するため、栄養士がバラエティに富んだ献立を作成している。</p> <p>○退所後の生活に向けて、親子生活訓練室や自立訓練室を活用している。卒園後5年間は、担当職員が積極的に連絡を取り、年1～5回、一緒に外食して子どもたちの様子を確認している。大学や専門学校等に進学した子どもや、経済的な面等で一人暮らしが難しい子どもには、園内の住居を提供している。</p>
--

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

<p>第三者評価の受審が義務付けられてから今回で3回目の受審となりました。私たちの支援を振り返るとても大切な機会だと捉えております。評価機関の方々には我々が発行している広報紙を丁寧にお読みいただき、評価していただいたこと、大変感謝しております。</p> <p>ヒアリングでは私たちの支援の仕方についてとても熱心に聞いてくださり、客観的な視点でご判断していただきました。まだまだ足りない点もありますが、この結果に満足することなく子どもたちの最善の利益のため今後もより良い支援を求めていきたいと思っております。</p>

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されるとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
法人の基本理念や基本方針は、事業計画や広報誌、リーフレット、ホームページに記載して、広く周知している。また毎年、前年度までの取り組みをまとめた「日本水上学園の児童養護」にも、基本理念や基本方針を示している。新年度の事業計画は理事会に提出するとともに、職員に配布し、新年度の取り組みを説明している。子どもたちへの周知は、年齢によって伝え方が異なるが、基幹になる部分を分かりやすく説明している。保護者には、「入園のしおり」や保護者会で基本理念等を伝えている。		

2 経営状況の把握

(1)	経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】		
県の施設長会や市の児童福祉部会、また、全国児童養護施設施設長研修会、関東ブロック児童養護施設研究協議会の研修会等に、園長が参加して、児童福祉を取り巻く動向について情報を入手している。国の新社会的養育ビジョンでは、小舎制や里親への委託を中心に行っているが、市も現状を認識していることから、これまで実践してきたことを守っていきたいと考えている。入手した情報は、月3回開催する職員会議の場で報告し、全職員で内容を共有している。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】		
2年前、園舎の壁面や屋上の防水工事等の大規模修繕を行ったことから、現在、特に大きな問題は発生していない。経営状況については、2か月に1回、フロアリーダー会議に事務長が参加して、経営上の判断が必要な事案について、意見を述べている。経営状況については、2か月に1回、顧問税理士の内部監査を受けている。理事会には事務長も出席して、予算や補正予算、決算を報告して、経営状況を明らかにしている。市の推進計画を確認しながら、予算立て等を行っている。		

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	a ○ ○ ○

<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】	
法人の基本理念や基本方針に基づき、中・長期的な計画を策定している。中期計画には、定員を現在の90人から80人に減らすこと等を上げている。2年前の園舎の大規模修繕も、積み立てを計画的に行って実施している。国の動向がはっきりしない面があるが、今年度、職員アンケートを行い、支援の仕方や労働条件等を確認し、これまで中・長期的に積み上げてきたものを、今後も継続して進めていくことを決めている。	
② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
【コメント】	
中・長期的な計画を踏まえて、単年度の事業計画を作成している。また、前年度までの取り組みをまとめた「日本水上学園の児童養護」や事業報告での効果測定の結果を、次の事業計画につなげている。前年度を振り返り、記録類のパソコン入力化等を今年度の取り組みとしている。	
(2) 事業計画が適切に策定されている。	
① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】	
前年度までの取り組みをまとめた「日本水上学園の児童養護」や事業報告での効果測定の結果を、次の事業計画につなげている。2月の職員会議の場で職員間で話し合いを行い、園長が事業計画を作成し、理事会の承認を得て、4月の職員会議で内容を職員に説明している。月3回開催する職員会議を、園の養育・支援の内容を決定する最高機関としている。「日本水上学園の児童養護」や事業計画書は、全職員に配布している。今年度はB館のユニットの編成を変更している。	
② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○
【コメント】	
子どもたちには、日常の会話や各寮の話し合い、全体会等の機会を通して説明している。行事等はそれぞれの寮で、方針については個別の担当から話している。また、年2回発行する「水上だより」や保護者会の場で、園の行事や子どもたちの様子を保護者に伝えている。	

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○
【コメント】		
年度末の職員会議で、1年間の振り返りを行い、次年度に向けた目標を確認している。毎年、1年間を振り返る「日本水上学園の児童養護」を発行し、関係機関や民生・児童委員、学生等に広く配布している。「日本水上学園の児童養護」は24年間継続して発行しているが、今年度は伝えたいテーマを決め、その実践についてまとめた形式にリニューアルしている。子どもたちへの個別の支援や評価については、「日本水上学園の児童養護」とは別に、「内部資料」としてまとめている。		
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○
【コメント】		
第三者評価や市の一般指導監査等を踏まえ、職員会議で、改善すべき課題について、話し合いを行っている。改善すべき課題については、担当者を決めて取り組んでいる。自立支援計画について、育成記録が足りない等の課題があげられ改善している。毎年、各寮の目標を設定し、1年間を振り返り、次年度の目標を決めている。各寮の目標は、年度の半ばにも見直している。子どもたちも、全体会の中で話し合いを行っている。		

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○
【コメント】		
職務分担表に園長の役割を示し、「日本水上学園の児童養護」においても、園長が1年間の振り返りを行い、園の今後の方針等を説明している。園長不在時に、子どもたちに何かあった場合には、必ず園長に報告する体制を整えており、職員も理解している。外出時には、園長が携帯電話を所持し、つながらない時には、各リーダーや事務長の判断を仰ぐよう、不在時の権限委任等を明確にしている。		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○

	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

県の施設長会や市の児童福祉部に園長が参加して、遵守すべき法令等の把握に努めている。全国児童養護施設施設長研修会、関東ブロック児童養護施設研究協議会等、多くの研修会に参加して、専門性の向上に努めている。朝の打ち合わせや職員会議、寮会議等には、基本的に園長が参加して、児童福祉法の改正の内容や、国の新社会的養育ビジョン等について、職員に説明している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

全国児童養護施設施設長研修会、関東ブロック児童養護施設研究協議会等、多くの研修会に園長が参加して、専門性の向上に努めている。年1回、園長と職員との面談、園長と子どもとの面談を実施して、課題の把握に努めている。話し合いの中から、外出支援の費用負担の改善等につなげている。職員には夏に無記名のアンケートを行い、養育支援の体制や労働条件等の意見、要望を聴いている。職員からは、これまで築いてきた養育・支援体制を継続していきたいとの声が多く上っている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】

働きやすい職場作りとして、子育て中の職員は宿直を減らす等、職員の負担を少なくするよう取り組んでいる。現在、職員の平均勤続年数は11年と安定している。あらかじめ職員の退職がわかっている場合には、人員が不足しないよう、就職媒体サイトを活用したり、県社会福祉協議会主催の福祉のしごとフェアに参加して、求人活動を行っている。職員の半数は、再就職、再雇用の社会経験のある職員で構成されている。職員の昇給については、その年によって入ってくる金額も異なるので、財務状況に合わせて決定している。ゴミの分別化や、省エネルギー促進のためのLED電球への変更、電気や水道の節約等にも取り組んでいる。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="checkbox"/>
(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

あらかじめ職員の退職がわかっている場合には、人員が不足しないよう、就職媒体サイトを活用したり、県社会福祉協議会主催の福祉のしごとフェアに園長が参加して、有能な人材の確保に努めている。福祉のしごとフェアでは、児童養護施設の仕事の内容を説明する他、アルバム等を見せて園の様子を伝えている。職員の退職の希望は、夏頃までに、園長やリーダーに言うてもらうようにしている。退職希望の職員も、子どもたちとの関わりを重視して、3月いっぱいまでは仕事に就いている。

② 15 総合的な人事管理が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

仕事の内容から、どこに基準を置くか曖昧であり、貢献度も測りにくいいため、人事考課等は導入していない。給与等の昇給は、一律に上げることとしている。年1回、園長と職員の面談を行い、職員の現況や目標等を聴いている。面談では、特に管理シート等は使用していない。月1回、学習会担当がテーマを決めて、職員学習会を開催している。職員学習会では、外部研修の報告を行う他、先輩職員の経験等を聴いている。新任職員の学習会では、人権や子どもの権利を中心にしたテーマで、話し合いを行っている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員の健康診断を毎年実施し、職員の健康状態の把握に努めている。毎月の勤務シフトは、職員の希望を聞きながら、寮会議で決めている。職員の有給休暇も寮ごとに調整して、積極的に取得できるようにしている。永く勤めている職員には、リフレッシュ休暇として、永年勤続特別休暇を設定している。10年の職員に7日、20年、30年の職員には14日の特別休暇があり、まとめて取得できるようにしている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

園長と職員の面談の他に、2か月に1回、各寮のリーダーと職員の面談を行っている。リーダーとの面談では、具体的な子どもへの支援の内容が多く、リーダーも子どもを担当していることから、アドバイザー的な役割を担っている。実際に同じ現場で働いている仲間として、話しやすさを大切にしている。面談の内容は園長に報告し、共有するようにしている。入職3年以内の職員は、新人学習会に参加して、子どもたちの人権や権利について学んでいる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

研修委員により、年度初めに職員の研修計画を策定している。年2回、同じ区内の児童養護施設と一緒に、区三施設合同研究会を開催している。施設間交流研修も積極的に行い、県内外の児童養護施設と交流している。いろいろな施設と交流することによって、地域小規模ケアや、自分の園との違い等を職員が学んでいる。職員学習会の場で、研修報告を行い、内容を共有している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

期待する職員像として、コミュニケーションを一所懸命取る職員、素直な職員、うまくいかなかったことも含め何でも話ができる職員であってほしいと考えている。月1回開催する職員学習会では、研修報告を行い、研修資料をコピーして全員に配布している。学習会の定期的な開催は、職員間で支援の内容を共有する場と位置付けている。入職3年以内の職員を対象とした学習会は、園の養護や歴史を学ぶ場としている。リーダーの職員を、スーパーバイザー(対人援助職の教育における指導者)としている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
---	---	---

	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
実習生は、できるだけ児童養護施設で働くことを希望する学生を受け入れている。4～5月に、実習予定の学生全員に集まってもらい、オリエンテーションを行い、園の方針について園長や寮の職員が説明している。実習は、大学で学んでいる内容と現場での実践を比較する学びの場としている。実習時には、子どもたちと関わるだけでなく、職員と話をする時間を設けている。実習生が職員と話をすることも大切と捉え、職員が何を考えて、何を目標にして子どもと関わっているかを伝えている。職員にとっても、自分の説明する力を確認する場となっている。実習生には丁寧に時間を掛けて関わることを心掛け、現在4校5人程の実習生を受け入れている。		

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="radio"/>
【コメント】	
ホームページに、法人の基本理念や基本方針、財務諸表、第三者評価結果を公表し、運営の透明性を確保するための情報を公開している。事業計画書や事業報告書を事務所に置き、いつでも閲覧できるようにしている。毎年、1年間を振り返る「日本水上学園の児童養護」を発行し、関係機関や民生・児童委員、学生等に広く配布している。「日本水上学園の児童養護」は、24年間、継続して発行している。	
② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="radio"/>
【コメント】	
経理については、2か月に1回、顧問税理士による会計の内部監査を行っている。市子ども青少年局監査課による一般指導監査は、2年に1回受けている。第三者委員や社会保険労務士等、外部の専門家の意見を聴く体制を整え、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みを行っている。	

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a

<input type="checkbox"/>	地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
<input type="checkbox"/>	子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	
<input type="checkbox"/>	子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
<input type="checkbox"/>	(児童養護施設) 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

子どもたちが地域の野球クラブやサッカーチームで活動しており、担当職員が練習等を手伝い、日常的に地域と交流を図っている。近くの公園の愛護会を結成し、花壇の清掃活動を担っている。花の日や収穫感謝の日には、日頃から子どもたちがお世話になっている病院や支援団体に、花や果物を届けている。学校の友だちが遊びに来ることもあり、公文学習が始まる時間まで、子どもたちが一緒に遊んでいる。中・高校生は、友だちのところに遊びに出掛けることも多い。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/>	地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
<input type="checkbox"/>	ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

学習ボランティアや空手ボランティア、美容師のカットボランティア、バラ会によるバラの手入れ等の活動がある。学習ボランティアの方とは、年2回、担当職員との話し合いを行い、子どもたちの学習の様子、気になる点、参考書の希望等を確認している。小学校の安全パトロールに職員が参加し、子どもたちの学習の様子も確認している。市立学校教員の「企業等リーダーシップ開発研修派遣」にも毎年協力し、夏休み期間中に教員の受け入れを行っている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<input type="checkbox"/>	当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
<input type="checkbox"/>	職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

年1回、幼稚園や小学校、中学校と、情報交換を行う連絡会を開催するとともに、学校からの家庭訪問に対応している。児童相談所とは、5月に担当者変更の顔合わせを行い、10月に連絡会を行っている。児童相談所とは、自立支援計画の作成や見直し時の関わりその他、随時連携している。幼稚園の母の会に参加し、児童養護施設について保護者に説明し、園の見学に20名の保護者が訪れている。また、自立支援コーディネーターが、市のアフターケアの連絡会に参加している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	

【コメント】

民生・児童委員等の見学を積極的に受け入れ、園長が現在の社会的養護の実態について話をしている。福祉避難所に指定されていて、災害があった場合には、受け入れる準備を整えている。AEDも完備している。地域の福祉ニーズを把握するよう努めているが、地域柄、難しい面もある。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

民生・児童委員等の見学を積極的に受け入れ、園長が現在の社会的養護の実態について話をしている。民生・児童委員の見学は、他県からの希望も多い。福祉避難所に指定されていて、災害があった場合には、受け入れる準備を整えている。災害用の非常食は、5日分備蓄し、毛布やランタン、カセットコンロも備えている。3月11日には、ランタンを灯しながら、子どもたちが非常食を食べる試みも行っている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもを尊重した養育・支援を実施するため、全国児童養護施設協議会の「倫理綱領」を、園長が職員全体に説明している。必要に応じて、職員が子どもの人権に関する研修会に参加している。入職3年以内の職員は、新人学習会に参加して、子どもたちの人権や権利について学んでいる。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

中・高校生は個室を確保して、プライバシーを守ることができるよう配慮している。子どもたちは、自分の領域を確保して、個人の嗜好に合わせて、居室内を飾っている。小さい子どもは、職員との関係性を大切にして、安心して過ごし、職員に何でも思ったことを伝えられる、話しやすい環境を整えるようにしている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

入所時に「入園のしおり」にて、子どもや保護者に必要な情報を提供している。説明時には、予防接種の同意も、保護者から書面で得るようにしている。入所時に保護者がいない場合には、児童相談所のケースワーカーから、予防接種の同意書等を渡してもらおうようにしている。面会や交流のある保護者には、適宜話し合いを行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所時に「入園のしおり」にて、子どもや保護者に必要な情報を提供している。説明時には、予防接種の同意も、保護者から書面で得るようにしている。入所時に保護者がいない場合には、児童相談所のケースワーカーから、予防接種の同意書等を渡してもらおうようにしている。自立支援計画の作成及び見直し時には、来園する保護者には、意向を確認し、来園のない保護者には、児童相談所から意向等を確認してもらっている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

措置変更や家庭への移行については、児童相談所と連携して対応している。家庭復帰した子どものその後については、児童相談所から直接相談がある場合を除き、児童相談所に対応を任せている。自立支援コーディネーターを置き、子どもたちの退所後のアフターケアを行っている。退所後は、年3回程度、担当職員と一緒に食事をしている。子どもたちが退所して5年間は、アフターケアを行うこととしている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に参加している。	○

<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちとの日常の関わりや、外出、学年ごとの話し合い等を通し、担当職員が子どもの意向や希望を確認している。担当職員が休みの時に、子どもの要望等があった場合は、引き継ぎ時に情報を共有するようにしている。子どものリーダー会議等で、子どもたちから要望や希望が上った場合には、職員会議で内容を検討し、検討結果を子どもたちにフィードバックしている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
<input type="checkbox"/>	養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者等の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

学識経験者や児童精神科医、弁護士等で構成する「こどもの権利擁護委員会」を置き、苦情解決の仕組みを整えている。年度初めに委員長より、委員会の目的や仕組みを子どもたちに説明し、年2回、職員との懇談会も開催し、情報交換を行っている。また、年3回、各寮のリーダーが子どもと面談し、子どもたちの話を聴く機会を設けている。保護者に対しては、保護者会の場で、意見を聴いている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
<input type="checkbox"/>	子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

担当職員が子どもと一対一で外出(映画やボーリング、外食等)し、園内では言いにくいこと等を個別に聴いている。園内で子どもたちから話を聴くときは、スタッフルームのカーテンを閉めたり、子どもの部屋で相談に応じる等、プライバシーの確保に配慮しながら対応している。子どもたちには、園長より、誰にでも相談できることを伝えていく。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

食堂にポストを設置しているが、最近ほとんど投書がない。ポストに投函された時には、職員に内容を伝えるとともに、こどもの権利擁護委員会の委員が、子どもが納得のいくまで話を聴くこととしている。ポストへの投書がほとんどないのは、子どもたちが「入れずらい」、「入れた後、どうなるのか不安」と感じているからと考えている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

子どもたちに怪我や事故があった場合には、市の対応マニュアルに沿って、報告書を提出している。また、毎月のヒヤリハットについては、担当職員が「〇月のスモールヒヤリハット」としてまとめ、その月の最後の職員会議で報告し、職員間で内容を共有している。外部からの不審者対策として、敷地内に2台、防犯カメラを設置している。また職員がAEDの講習を受け、事故の発生に備えている。幼児の救急法に職員が参加する他、救急法の指導者の資格取得を目指している職員もいる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

感染症の予防マニュアルを整備し、各フロアに置いている。また、嘔吐物処理キットも常備し、説明書を掲示している。子どもがインフルエンザに罹患した時には、寝室等に配慮(個室の子どもと部屋を替わってもらうこともある)して、早目の対応を心掛けている。健康管理マニュアルを整え、予防接種等の実施も記録している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

毎月、災害時に備え、火災や地震、土砂災害を想定して、年長児童寮、年少児童寮とも、避難訓練を実施している。消火器訓練や緊急連絡網を使用した訓練も行っている。備蓄庫には、5日分の非常食を備蓄し、栄養士が管理している。就寝時の災害発生に備え、子どもたちのベッドの近くには、ガラスの破片等で怪我をしないよう、サンダルを常備している。園の隣りに特別支援学校があるので、災害時の連携を検討する必要があると考えている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>
【コメント】		
毎年発行する「日本水上学園の児童養護」に、養育・支援の方法や、各寮の支援の取り組みをまとめ、支援の振り返りや今後の目標を明確にしている。「日本水上学園の児童養護」の発行作業には、全職員が内容を検討しながら関わっている。こどもの権利擁護委員会を設置し、第三者委員の連絡先と、園での生活をより良くするための子どもたちの意見を伝えるポストを、食堂に設置している。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
各寮で、1年間の支援内容を振り返り、職員会議の場で内容を共有している。フロアリーダーが、1年間の目標と目標に対する評価や課題をまとめている。子どもたちの自立支援計画は、年2回、見直しを行っているが、支援内容に変更があれば、その都度見直し、適切な支援につなげている。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>
【コメント】		

子どもたちの自立支援計画は、担当職員が作成し、リーダーや園長の確認を受け、寮会議で内容を共有している。精神的な部分で不安を抱えている子どもは、児童相談所の心理司の心理判定を受けている。必要に応じてカンファレンスを行い、児童相談所や学校等と連携して、情報を共有している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

児童相談所とは、必要に応じてカンファレンスを行い、子どもに対する支援目標や見立ての共有を図り、自立支援計画書に反映している。児童相談所のケースワーカーは変更もあり、連携が取りづらい面もある。自立支援計画は年2回、前期と後期で見直しを行っているが、課題を抱えている子ども等、状況の変化に応じて支援内容の変更を行い、自立支援計画の見直しを行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

最近まで手書きしていた児童育成記録は、各担当職員が寮内のパソコンにデータ入力している。記録は印刷して各寮にファイルし、朝の打ち合わせの場で、職員間で情報を共有している。記録は、統一した文章表現を用いて、わかりやすい言葉で記録するようにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

子どもたちに関する記録類は、事務所の鍵付きのキャビネットに保管している。職員が事務所から書面を持ち出す場合には、記録簿に必ず記入することとしている。写真の管理方法も定め、掲載する子どもたちの写真は、個人が特定されないよう加工している。記録類が入ったUSBメモリーも、鍵の付いたキャビネットに保管し、持ち出しについてルールを定めている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>毎年、職員会議の場で、全国児童養護施設協議会の「倫理綱領」を読み上げ、子どもの権利擁護について職員全体で内容を確認している。年2回、こどもの権利擁護委員会の委員と職員との懇談会を開催し、意見交換を行うとともに、委員から助言を受けている。委員との懇談会は、子どもたちに対する支援内容を振り返る良い機会としている。キリスト教の精神に基づいて設立された園だが、礼拝の時間は設けず、子どもたちに信仰の強制はしていない。子どもたちの信仰や思想の自由を保障している。</p>	
(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>毎年4月、こどもの権利擁護委員会の委員長から、子どもの権利の話とポストの設置を子どもたちに説明している。子どもたちの間で喧嘩があった時等は、相手を思いやること、ばかにしないこと等の話し合いを行っている。日頃より、子どもたちには、いじめについて、身の安全を守ること、性について、プライバシーを守ること等を意図的に伝えている。子どもの権利に関する研修会に、職員が参加している。</p>	
(3) 生き立ちを振り返る取組	
<p>① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

中学3年生になると、担当職員が中心になり、これまで行ってきた「育ちの整理」の報告書をまとめている。「育ちの整理」を行うことで、子どもたちが将来を前向きに考え、自立につなげてほしいと考えている。子どもがどう育っているかをまとめる作業は、職員の振り返りの作業でもある。作成した「育ちの整理」は児童相談所に提出し、担当福祉司や支援係長から意見をもらっている。子どもたちの成長に応じて、生育歴の整理や家族との関わり、また将来について話し合い、退所するまでに、子どもたち本人の理解や納得が得られるよう支援している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があつた場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があつた場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

2年前、職員による不適切な言動があり、園全体で状況を確認し、再発防止に取り組んでいる。職員による不適切な対応は、どの寮、どのチームでも起きる可能性があることから、早期発見の仕組みや、子どもたちの声を受け止める工夫等に取り組んでいる。複数指導体制をとり、相互にチェックし、不適切な対応がないよう心掛けている。また、日常の話し合いや職員会議、学習会等でも、職員間で振り返りを行っている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

① A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

部屋ごとにリーダーを決め、ユニットの意見を代表して話したり、行事の際は中心になって活動している。「高校生オリエンテーション」では、生活のルールについて意見交換し、必要なルール等を決めている。精神的自立委員会で、子どもたちの話し合いの機会を作り、全体会では子どもたちが自分の意見を言えるようになってきている。子どもたちは年齢に応じて、金銭を自己管理している。児童手当は、将来に備え、貯蓄している。高校生にはアルバイトを勧め、子どもたちはアルバイト代の振込口座を作っている。アルバイト代は貯金したり、携帯電話代等に充てている。高校生には、自立訓練を行う機会を設けている。また、職員がきちんと説明できないと、押し付けになってしまうので、職員自身が納得して子どもに説明できるよう、職員会議で検討を重ねている。

(6) 支援の継続性とアフターケア

① A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設室体でその重要性を理解し、大所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	□入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
<input type="checkbox"/>	□子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	□家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

担当予定の職員が、子どもの見学の案内を行っている。幼児や小学生には担当職員が密に関わり、子ども同士が仲良く遊ぶことができるよう調整している。子どもたちは入所時に担当職員から「ぬいぐるみ」をプレゼントされ、とても大切にしている。乳児院からの措置変更の子どもは、乳児院の職員と一緒に遊んでもらう等、丁寧な慣らし保育を行っている。家庭復帰に向けては、話し合いを行い、状況確認や帰宅訓練等を丁寧に行っている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/>	□子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	□退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
<input type="checkbox"/>	□退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
<input type="checkbox"/>	□行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	□本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/>	□退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所後の生活に向けて、親子生活訓練室や自立訓練室を活用している。卒園後5年間は、担当職員が積極的に連絡を取り、年1～5回、一緒に外食して子どもたちの様子を確認している。卒園後の子どもたちの状況は、記録に残している。毎年1月、新年会を開催し、卒園して1～2年目の子どもを招待し、仕事の内容や現在の生活の様子を子どもたちに伝えている。子どもたちは真剣に先輩の話を聴いている。大学や専門学校等に進学した子どもや、経済的な面等で一人暮らしが難しい子どもには、園内の住居を提供し、また、園内のアルバイトを勧めたりしている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
<input type="checkbox"/>	□職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
<input type="checkbox"/>	□子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
<input type="checkbox"/>	□子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
<input type="checkbox"/>	□子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/>	□子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

同じ職員が担当する個別担当制を取り、愛着関係を形成している。甘えたいがうまく甘えられなかったり、試し行動に出る等、感情や言動を素直に表出できない子どもが多いが、職員はその場の言動を問題にするのではなく、背景を踏まえた上で対応している。信頼関係ができるまで長く付き合うことにより、子どもたちは素直に、言葉で言いたいことを言うようになってきている。年少児童寮の子どもには、「たくさんスキンシップを取る事」等により、愛着関係を形成している。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/>	□子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○

<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

年長児童寮の子どもたちは、食堂で一緒に食事している。皆で食事をするにより、子どもたちは、好き嫌いも少なくなり、自分の食べられる量も調整している。年少児童寮の子どもは、就寝時に「マーマー」と言ったり、乳児院から入所してきた子どもは「〇〇せんせー」と言って泣くことがあるが、担当職員との関係ができてくると、添い寝をしてもらいながら安心して眠りにについている。夕食後、担当職員と個別で触れ合う時間を多くとることができるよう、職員配置に配慮している。

③ A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

公文を始めとする学習や運動等で、子どもたちが力を発揮した時には、担当職員だけでなく、職員全体で子どもを誉め、次につながるようにしている。年少児童寮の子どもたちが自分で何かやろうとしている時には、職員は声掛け、見守りをして、できた時は共に喜ぶようにしている。友だちと遊びに行きたい気持ちが強い子どもに対しては、職員と話し合い、ゲームセンター等への出入りについて、自分で考えられるようにしている。子どもたちが何かにつまずいた時も、担当職員との話し合いの時間を多く作り、子どもたちが自分で解決ができるよう働きかけている。子どもたちとの話し合いを大切に、平日は夕方から夜の時間帯に職員を多く配置するよう、勤務体制を整えている。

④ A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

個別担当制を基本として、子どもたちの成長に応じたプログラムを考えている。療育センターに通っている子どもには、言語療法士のアドバイスにより、ひらがなビンゴゲーム等を職員が作成し、子どもと一緒に取り組んでいる。各寮に、漫画や子ども新聞、一般紙を置いている。バスケットや卓球、サッカー、野球等、子どもたちのニーズに合わせて活動できるようにしている。感情のコントロールの難しい子どもも、運動に熱中している時はとても落ちついた穏やかな表情をしている。子どもたちの意思を尊重しながら、県の児童福祉文化体育協会の劇や行事にも参加している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

年少児童寮の子どもには、散歩の際に交通ルールを教えている。年度初めの「高校生オリエンテーション」で話し合いを行い、生活の仕方についてルールを確認している。園の目標でもある働ける大人を目指し、子どもたちの自立を支援している。担当職員と個別にレストランで外食をして、マナーを身につけたり、自分でメニューを決め食材を購入し、寮で調理の体験をしたりしている。高校生はアルバイトをして、携帯電話を自己管理している。園からの小遣いは、通帳に入金し、自分で引きおろしができるようにしている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気の中で食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

朝、夕は、年長児童寮の子どもたちが食堂に集まり、皆が一緒に楽しく食事をしている。調理は外部業者への委託だが、子どもたちの成長を考え、楽しく、おいしい食事を提供するため、栄養士がバラエティに富んだ献立を作成している。玄関前のプランターでトマトやピーマン等を栽培し、子どもたちが収穫している。ピーマンを収穫をした子どもが自分で調理して、「食べて」と持ってきてくれたりする。卒園した子どもたちからも、「水上学園の食事はおいしいし、メニューが豊富で良かった、また食べたい」との声が多く上っている。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたち一人ひとりに、個人の衣類を収納できるクローゼットがあり、基本的には子どもたちが、衣類を自分で管理している。幼児や小学校低学年の子どもは、本人の好みを確認して、職員が衣類の補充をしている。中・高校生は職員と一緒に買い物に行き、自分で衣類を選んで購入している。毎日の洋服は、自分で選んで着ているが、こだわりがあり決まった洋服しか着ない子どもや、季節に合わない洋服を選んで着る子どももいるため、職員がアドバイスをしながら、選んでもらっている。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

中・高校生には個室を確保し、小学低学年の子どもは個人の空間を確保できるようにしている。個人で勉強している時以外は、子どもたちはリビングで過ごしていることが多い。年齢に応じて掃除の担当を決め、朝と夕に掃除を行っている。職員も分担を決め、担当の寮内を清潔にしている。テレビ台等の角にはクッションを貼り、安全に配慮している。各寮に生花や子どもたちの作品を飾り、暖かく楽しい雰囲気を保つよう配慮している。高校生は個人用のシャンプー等を使用し、子どもたちはベッドに好きなぬいぐるみを置いている。園内の破損個所等は、すぐに修繕するようにしている。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

市内小児科の嘱託医により、年1回、健康診断を行っている。インフルエンザの予防接種は、年少児や受験を控えた中学3年生、高校3年生に実施している。喘息やその他の疾患で、定期的に医療機関に受診している子どももいる。子どもたちの受診は、児童指導員や事務長が付き添っている。子どもたちの健康状態は、健康管理ファイルにて把握している。子どもたちの成長の様子は、栄養士がグラフにして記録している。定期的に服薬が必要な子どももいるため、各寮のスタッフルームの鍵のかかるケースに薬を保管している。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>

必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。

【コメント】

性教育委員会にて、年齢に応じて、子どもたちとの話し合いを計画的に行っている。精神的自立（他人を配慮しながら自分で考えて行動を決定し、その結果に責任を取ることのできる能力）に大きく関わる事柄なので、性の知識を理解するだけでなく、「どう生きていくのか」を、子どもと一緒に考えるようにしている。帰省時にトラブルが生じる場合もあり、危険性だけでなく、ざっくばらんに職員と話ができる体制を作るようにしている。子どもたちが生きていく上で、自分にとって大事なものは何かを考える機会としている。また、性別により生活の役割を区別しない等、性差の先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

大声で叫んだり、バットを振り回す子ども等がいる場合には、子どもが抱えている要因が問題なのか、自閉的傾向があるための行動なのかを見極めるようにしている。他の子どもに危害が加わらないよう配慮し、子どもが落ち着いてから、ゆっくりと担当者が関わりを持つようにしている。複数指導体制により、チーム全体でフォローをしている。基本的には園内で協議をし対応しているが、他の子どもに影響が及ぶ場合には、児童相談所と協議し、一時保護や措置変更の対応を取ることもある。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

些細なことから、一人の子どもを無視したりすることがときどきある。精神的自立委員会の中でテーマを決め、子どもたちが話し合いをする場を作っている。子どもたちは、どんなことがいじめになるか等を話し合っている。「ヒトはいじめをやめられない」等の著書を参考にしながら、職員は子どもたちの話し合いに参加している。現在、大きな暴力やいじめ、差別等は起こっていない。また、外国籍の子どももいるが、言葉も見かけも変わらないので、差別やいじめにはつなげていない。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>

- 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。
- 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。

【コメント】

園が期待する心理士がなかなか見つからないことから、現在、心理士は不在である。しかし、児童相談所の心理士との連携がうまく取れ、必要な子どもは心理的ケアを受けている。また、こどもの権利擁護委員会のメンバーでもある児童精神科医や嘱託医からアドバイスをもらっている。また必要に応じて、児童心理治療施設に相談に行くこともある。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援の目標でもある「働ける大人になる」ための第一歩として、学力の向上に力を入れている。小学生から公文による学習や英会話、学習ボランティアによる学習、学習・身体・社会面に働きかけるコグトレの学習法等を取り入れ、小さいうちから学習の習慣が身に付くよう働きかけている。高校卒業後、大学や専門学校に進学する子ども、また自分に適した職場を選び、正社員として勤める子ども等、担当職員に自分の考えを伝えながら進路を決めている。特別支援学校を卒業する子どもは、学校と連携を取りながら、日中活動の場やグループホーム等を選んでいく。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 就業者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証入確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちの最善の利益として、①経済的自立(自分で働いて食べていくことのできる能力)、②精神的自立(他人に配慮しながら自分で考えて行動を決定し、その結果に責任をとることのできる能力)を柱に、働ける大人になることを支援している。進路決定については、十分に担当職員と話し合い、園の職員宿舎を提供したり、園独自の奨学金制度を利用できるようにしている。自宅引き取りになった子どもが、高校を中途退学したり、園に再度入所するケースもある。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

高校生には、アルバイトを積極的に勧めている。アルバイトを行うことで、子どもたちは将来に向けた貯蓄の他、就労の体験や社会経験を培っている。社会生活に必要なコミュニケーションについても、普段から意識して取り組んでいる。就職の面接の際、会社からの問い掛けに対し、園での発表の体験から、はっきり答えることができたとの卒園生の話もある。工業系高校に進んだ子どもには、職場体験をする機会が多い。引きこもりがちだった子どもが、卒園生の職場のアルバイトを紹介されたりもしている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できよう図っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの育児に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家族との信頼関係作りは、それぞれの子どもの担当職員が、児童相談所と共通認識を持ち、役割分担しながら行っている。子どもたちが園での生活を継続するのか、家に帰っての生活を選ぶのか、保護者と連携を取りながら関わっている。保護者によっては、養育に関心がない等、今も課題を抱えているケースも多い。年1回、保護者会を開催し、園での生活をVTR等で紹介しているが、参加する保護者は少ない。

(11) 親子関係の再構築支援

① A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

親子関係の構築の場として、ファミリールームを活用し、親子の生活訓練の場を提供しているが、利用は少ない。子どもたちが、家での生活はどうか、園での生活はどうか、どちらを選択するのかを冷静に考えることはとても難しいと感じている。親が引き取りを希望し退所になるケースでも、家に帰るのはいやだと逃げ回る子どももいるし、逆に、子どもが家に帰りたくないと受け入れてもらっても、失敗して再度園に戻るというケースもある。親子関係の再構築の支援は難しい面が多いが、積極的に取り組んでいる。